

開催地名：埼玉県深谷市	
開催日時	令和2年2月12日（水） 18:30 ～ 20:00
開催場所	深谷市民文化会館
語り部	島田 福男 （宮城県仙台市）
参加者	深谷市自主防災組織 約120名
開催経緯	<p>当市では、自主防災組織として活動している組織が少ないことと、市民の防災意識の低下の2点が懸念されている。今回、深谷市自主防災組織連絡協議会において東日本大震災の語り部による講演会を開催することで、自主防災組織の活動強化と、防災意識の向上を図りたい。</p>
内容	<p>（1） 連合町内会の防災活動</p> <p>地震というのは、なかなか予知できない。いつ、どこで、どの程度の規模のものが起きるのか、誰にも分からない。したがって、災害に対する備え、準備が必要である。地震が起きてからではなかなか対応することが難しい。前もってみんなで話し合い、それぞれの地域のルールというものを決めておかないと、対応が困難となる。</p> <p>そのような観点から、私たちの地区では平成14年に連合町内会に自主防災組織を作った。川平学区連合町内会は5つの町内会で組織されている。地域の人口は約1万人で、規模の大きい連合町内会である。平成19年、川平学区連合町内会自主防災行動計画を策定し、防災の取組を始めた。毎月1日を町内会防災の日と定め、150本ののぼり旗を掲げてもらうとともに、ビブスを150着購入し、防災訓練などのとき役員に着てもらっている。</p> <p>その他、450万円をかけて発電機やリヤカー、炊き出し用大鍋など防災用資機材を購入し、公園の倉庫など各所に置いてすぐ利用できるようにした。平成22年には、社会福祉協議会や防犯協会、小学校、中学校、老人クラブ、地域内の病院、商店など50団体とともに、川平地区防災対策連絡協議会を設立し、定例会を行うと同時に、避難所運営などを具体的に考える防災訓練を行った。その後、災害対応計画案を地域住民に説明すると、200件以上の意見が出た。意見を集約していたとき、東日本大震災が発生した。</p> <p>（2） 地震発生時の状況</p> <p>揺れが収まった後、対応計画に従って近所へ安否確認に赴いた。結果全員無事だったが、管轄地域内で、地割れや水道管の破損が相次いで起こったため、その対応にも当たった。それと同時に、小学校に対策本部も設置し、町内会に照明用の発電機、投光器、燃料用のガソリンの設置を行った。まずは避難所の中を明るくすることにより、何度も襲ってくる余震の揺れに対しての不安を軽減するこ</p>

とができた。また、「避難者カード」を発行して、カードを利用して避難所の運営を行った。運用方法としては、外出する際にはそのカードを所定の場所に置いてもらい、戻ってきたらまた戻す。食事の配給の時もそのカードに従って呼び出しをかける。そうすることによって、避難所での混乱を防止することができ、本当に静粛に運営をすることができたと思っている。

(3) 震災での気づき

ライフラインがストップすると、どういうことになるか。電気が止まれば信号が止まる。照明がなくなって真っ暗になる。また、意外に盲点だったのが、家庭用の電話はほとんど使えないということだった。コンセントに差しこんであるものは使用できず、黒電話のように電話回線に差しこんであるものは使えた。今は改良されて、停電になっても何時間かは使えるものが出てきているようだが、当時は全く利用できなかった。自転車は近距離の連絡用に利用価値は高いが、直接人が漕いで行く必要があるので急用や簡単な連絡には不向きである。そこで、一番役に立ったのは携帯電話である。通話はなかなかかかりづらいのだが、ショートメール機能は大いに役に立った。

また、トイレ用の水の確保にも苦労した。飲料水は意外と何とかなるが、大量に必要となる生活用水の確保は大変であった。具体的には、近隣の小中学校のプールの水を利用した。



開催地より

東日本大震災前に行った、連合町内会での周到な準備や備えについてのお話は、大変興味深いものであり、防災意識の啓発につながったと思う。今後の各組織で実施していく防災活動において、参考としていきたい。